

## イースター礼拝

2023年4月9日（日）

題 「生きておられる方」

テキスト：ルカによる福音書24章1～12節

皆さん、イースターおめでとうございます！

瞬きの詩人と呼ばれる亡き水野源三さんの「こんな美しい朝に」という詩があります。イースターの季節になると思い出します。

☆こんな美しい朝に☆

「空には 夜明けとともに 雲雀（ひばり）がなきだし

野辺には つゆに濡れて すみれが咲き匂う

こんな美しい朝に こんな美しい朝に

主イエス様は 墓の中から

出てこられたのだろう」。このような詩です。

先日、鶯の鳴き声がどこからか聞こえてきてうれしくなりました。

今日は礼拝で主イエスのよみがえりを伝える聖書のことばが読みあげられました。そのことを感謝します。共にみ言葉に聞きましょう。

### ◆復活する

イエスの十字架の場面を遠くから見ていた女性たちは、イエスの墓を見届け次の日は、安息日（ユダヤ教では今日の土曜日で、約2000年前のユダヤ教の決まりで掟に従って休んだのです。そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行きました。

これは、現在で言えば日曜日の明け方のことです。世界中のキリスト教会や日本のキリスト教会の中でもイースターの日の朝にお墓に行って礼拝を捧げる教会もあります。わたしも以前経験したことがあります。洲本教会では、イースター礼拝後に曲田山の墓地に行って礼拝を捧げています。

婦人たちは、イエスの身体に塗るために香料を準備して墓に持っていったのです。婦人たちのイエスを慕う思いが立ち上ってくるかのようです。

婦人たちが墓につくと、墓の前を塞いでいた大きな石は転がされていたのです。この石は大きな丸い石で転がせるように加工され、墓の入り口を塞いでいました。

2:見ると、石が墓のわきに転がしてあり、

3:中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。

墓に来た婦人たちには、一体何が起こったのか、イエスの遺体はどうなっ

たのか、どこへ行ったのか、分かりませんでした。彼女たちは途方に暮れるしかなかったようです。

すると、驚くべき事に、

4:そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。

「輝く衣を着た二人の人」とは、天からの使い、天使たちで、他の聖書では若者と記されています。天使とは、神の言葉を伝える働きをする人のことです。誰か特定の人というよりも、神の意志や考えを伝えるために用いられる存在です。聖書では、有名な天使として、ガブリエル、ミカエル、ラファエルなどが登場しています。

この時、人間の常識的な思いを超えて天と地をお創りになった神さまの独占的な働きが起こったのです。

ここ、墓の中で、途方に暮れている中で婦人たちは、天の使いを通して神の声を聞くことになったのです。婦人たちは、この状況を理解できず、何が起こったのかも分かりません。気は動転するばかりだったと思います。

聖書によれば、

「5:婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」との天使からの言葉を聞いたのです。

ちなみに、現在イスラエルのエルサレムの街にはイエスの亡骸を納めた墓の上に紀元4世紀に建てられた「聖墳墓教会」と呼ばれる有名な教会があります。

ちなみに近代19世紀になってイギリスのプロテスタントのゴードン将軍が発掘した墓があります。緑豊かな公園となっています。こちらもイエスの墓と言われています。わたしも昔訪問する機会があったのですが、聖書の場面を再現したかのようなお墓でした。そしてお墓の入り口には、聖書に記されているように大きな転がすことのできる丸い石が置いてありありました。そして墓の中に入ると、狭い空間があり白い大きな布に、「イエスはこちらにはおられない。復活なさったのだ。」との英語で記された文字が書いてありました。美しい場所でした。

聖書に戻りますと、女性たちに現れた天使は、続けて

6:あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。

7:人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」

8:そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。

今回聖書を学んでいて思わされたことは、イエスの復活を想う時に、この「イエスの言葉を思い出す」ということです。自分を振り返っても、人は忘れやすいものだと思います。もちろん、忘れることも必要な時もあり、忘れるということがすべて悪いとは言えないと思いますが、ただ、イエスのよみがえり、復活の出来事に関しては、この「思い出す」ということがとても大切なことだということです。聖書には「思い出す」という言葉の原語であるギリシア語（ミムネスコ）は、「人間の後悔」と「神さまの憐み」、人間の弱さと神さまの慈しみ、とに関係して用いられることがあります。この言葉には、人間への神さまの憐れみの思いがあり、いのちが込められているのです。イエスは弟子たちの事を思い、思い出し。神は弱い弟子、わたしたちを憐れんでくださるのです。

主イエスも神さまも今でも失敗を犯しやすい私たちを思い出してくださっているということです。わたしたちが「主イエスの言葉を思い出す。」時、イエスさまとの人格関係、破れた関係の回復をもたらしてくれるのです。イエスを思い、イエスの言葉を思い出すことから、途方に暮れていた婦人たちの新たな一歩が始まったのです。それは愛なるイエスと神さまを伝えるという働きでした。この働き、主イエスと神を伝える働きは、今日、キリストの群れ、教会に託されていることです。

9:そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。

ここにいるわたしたちは、聖書の言葉を通して、信仰者の証や賛美を通して、愛にきたイエスを、十字架に死なれたイエスを、死んでよみがえられたイエスさ、そして今も「生きておられるイエス」を思い出すことができるのです。そして、暗いことの多い悩み多いこの世をわたしたいは生きて行けるのです。過去に出会った心通い合ういろんな人との出会いを思い出すこともかけがえのないことだと思います。これは私たち一人一人に神さまが与えてくださった恵みなのです。

主イエスのよみがえりの力は、私たち自身が立ち直って生きる力であり、人間関係の回復をもたらす力なのだと思えます。そして社会や、国を超えて世界との関係の回復をもたらすことにまで、広く深くつながっていることを覚えて感謝しながら未来に向かって前向きに生きて行きたいと願います。

皆様の上に主の平安を祈ります。共に黙想しましょう。